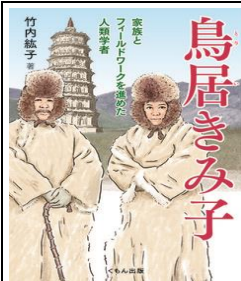


2025年度中学校 課題図書



「わたしは食べるのが下手」作；天川 栄人

私は、小食で食べるのも人一倍遅い。特に給食の時間は苦痛でしかない。みんなと顔を突き合わせて食べるあの時間が、苦痛で仕方ないのだ。必死に我慢して、ほんのひとかけらの給食を飲み込むのも、私にとっては、もはや拷問でしかない。吐き出したい気持ちを我慢して、のどに流し込む。そんな時、ひょんなことから「会食恐怖症」という言葉を耳にすることになるわけだが…



「鳥居きみ子：家族とフィールドワークを進めた人類学者」作；竹内 紘子

「知の巨人」といわれ、明治から昭和にかけて活躍した人類学者の鳥居龍蔵。その妻であるきみ子の生涯を描いた本です。夫である龍蔵の研究を陰で支え、後押ししてきた彼女は、「家族とともに調査・研究」という概念のもとに、当時の女性が活躍することを疎ましいと言われた時代を生き抜いた女性研究家の先駆者です。その生涯に、目を向けてみませんか？



「スラムに水は流れない」作；ヴァルサ・バジャージ

世界的にも大問題の一つと言われている水不足と水の汚染。インドに住む 12 歳の少女とその家族。大都会のムンバイのスラム街には、ムンバイの人口の40%が住んでいるにもかかわらず、供給される水は、人口のわずか5%。生きていくためには、水を手に入れるしかないこの町では、近年「水マフィア」による横領が続出しています。そんなある日、兄が遭遇した事件から物語は大きく動き始めます。学校へ通いながら家族のために水を汲み、働きに出る子どもたちの物語です。

今年度の課題図書を3冊読んでみました。食べることへの苦痛に悩む少女たち。それを取り巻く大人たちの思いや、葛藤が描かれた「私は食べるのが下手」をはじめとし、女性研究家の先駆者と言われた鳥居きみ子さんの生涯。そして、水をめぐる抗争が起こり、蛇口をひねれば、水が出るのが当たり前ではない国が、まだ世界にはたくさんあるということ。ぜひ、多くの皆さんに読んでいただきたいです。

心震える1冊に出会えますように…

新しい本もたくさん入っていますので、夏休みの読書にいかがですか？